

探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社SUN Reality

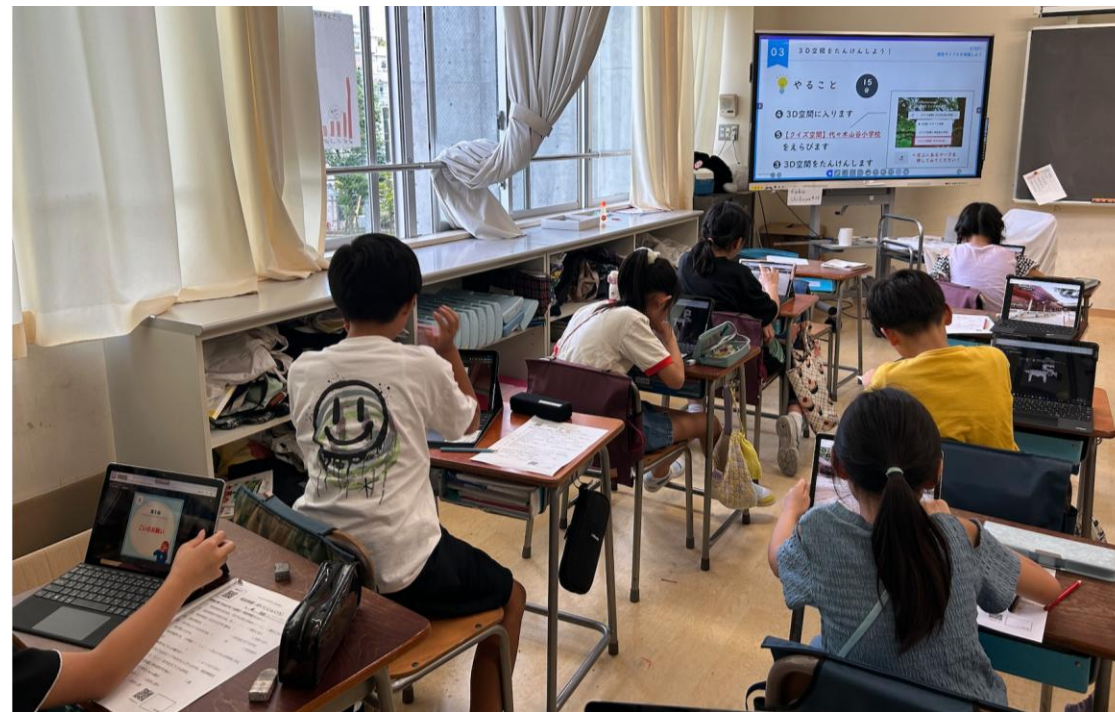
【サービス名称】

デジ探360

【サービスの支援項目】

カテゴリ2-1 教職員の業務効率化・省力化 メインサービス

2026年1月



SUNReality

■ 探究・校務改革支援サービスの概要



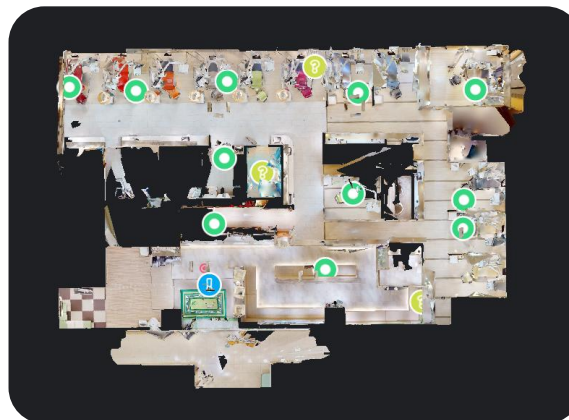
教育機関向け学習プログラム
 でじたんさんろくまる
デジ探360
 ~デジタル×探究トレーニング~

タブレット・パソコン・スマートフォンからアクセスし、働く現場の3D空間内で探究活動を行うことができるZ世代へ向けた新感覚の学習プログラム。

3D空間内には、その会社の事業内容や課題などが『タグ』として設置されています。『なぜタグ』と呼ばれる問いを立てるヒントのタグを宝探しのように見つけ、自分が興味のある問いに対して探究サイクルを一巡するプログラムです。

プログラムの特徴

- ①テクノロジーは子どもたちの好奇心を刺激する手段に!
- ②企業や組織団体にご協力いただき、
学校の費用負担と先生方の時間負担を軽減!
- ③発展的な探究学習にも対応!



探究サイクル【問いを立てる】


「なぜ?」というタグを配置し探究につながる動機づけを促します。空間そのものと「タグ」の中の情報から、もっと知りたい情報(=問い)を見つけていきます。

- 自分が気になることは何か
- 何を不思議だと感じるか
- 不便または不都合だと思うことはあるか
- どんな問題が発生するか




探究空間【体験版】


でじたんさんろくまる
『デジ探360』の導入によるメリット

01  児童生徒たちのワクワク・ドキドキを刺激する探究教材


テクノロジーは子どもたちの好奇心を刺激する手段に!

02  先生方が気軽に使ってみたいと思える教材と提供方法

企業や組織団体にご協力いただき、学校の費用負担と先生方の時間負担を軽減!

03  探究活動そのものが学校の魅力発信や地域理解につながる仕掛けづくり

発展的な探究学習にも対応!

 1サービスあたりの標準販売価
1校あたり月額 99,000円(税込)

13施設の3D空間に自由にアクセスできます!

業務効率化・利便性等に関連する効果

学校での教職員の負担が大きいと言われている中、特に「探究学習」においては、教職員の負担を軽減しつつ、効果的な学びを子どもたちに提供することが求められています。デジ探360は、3Dという興味関心を引くデジタルツールを使い、一人一台端末を活用しながら効果的・効率的に探究学習を進めることができ、教職員の負担軽減につながります。



↑ デジ探360教材の一部

サービスサポート内容

導入時のサポート

- ・ サービス利用のための初期設定
- ・ 教職員向け研修会の実施
- ・ 児童・生徒向け説明会の実施

〈 導入期間中は、随時コールセンター対応 〉

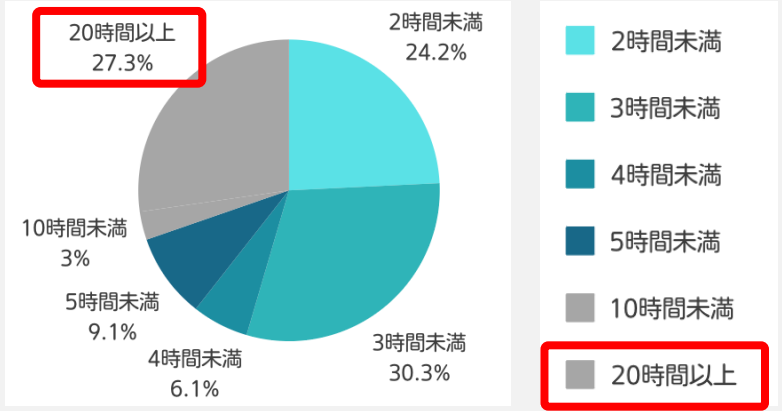
- ・ 授業設計のアドバイス
- ・ 3D空間を利活用するための情報共有
- ・ 接続不良などの問題が発生した際の対応 など…

教職員が抱える大きな課題

【Q】「**探究学習**」の授業準備に、月間どれくらいの時間がかかっていますか？

※2024年度実施のアンケート回答より(教職員36名)

- ・3時間未満の回答が最も多い。
- ・2時間未満と3時間未満の合計は、全体の約55%と半数以上を占める。
- ・約4分の1の教員が準備に20時間以上を費やしている。



➡ 約27%の教員が、月20時間以上かけて準備していることは**授業準備における負担が非常に大きい**と考えられます。

教室では



- ・「問い」の設定が上手くいかず「探究」に繋がりにくい。
- ・児童生徒一人一人の興味関心が分散され、個別指導や評価に手が回らない。

など…

『探究学習』において授業準備・実施の両面で課題が顕在化

『デジ探360』が果たす役割

✓準備の効率化

汎用性の高い探究教材を提供し、**授業準備時間を大幅削減**。教材の一部であるスライドをデータで提供することで、児童生徒の進度や学習のねらいに合わせてアレンジできます。(アレンジなしでも授業実施いただける教材です。)

✓興味関心を引き出すデジタルコンテンツ

3D空間という視覚的なコンテンツにより、探究への興味関心を引き出すとともに、リアルな現場を3D空間内で探索することで、**具体的な「問い」を見つけ出すきっかけを提供**。また、3D空間内で自律的に学ぶため、教員は「**知識の伝達**」から「**見守り・ファシリテーション**」へ役割をシフトでき、精神的・時間的余裕が生まれます。

サマリー

探究学習の授業準備において、教員の約27%が月20時間以上を費やすなど負担が大きく、個別指導への対応も困難な状況です。『デジ探360』は、汎用性の高い教材提供により準備時間を大幅に削減します。また、3D空間等のコンテンツが生徒の興味と自律的な学びを引き出すことで、教員は「知識伝達」から「ファシリテーション」へと役割をシフトでき、精神的・時間的な余裕を生み出します。

■ 探究・校務改革支援補助金における活用場面

サービスの活用風景・授業の流れ

🔧 授業準備の『効率化』と『質の向上』を両立。生まれた時間的・精神的な余白により、教員が児童・生徒一人ひとりの伴走者へと変わります。

STEP1 授業準備

すぐに授業ができるよう、授業シラバスからワークシートまで、必要なコンテンツを揃えています。アレンジも可能な汎用性の高い仕様です。

3D空間

全13施設を自由にお使いいただけます。QRコードより、空間に入ることができます。



授業シラバス

授業のゴールや構成など、空間ごとに作成しています。



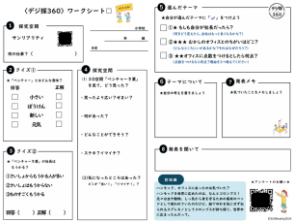
授業進行時の補助スライド

スライドはデータにて提供。ねらいや用途に合わせて修正できます。



児童生徒用のワークシート

Excelにて作成しています。書き込みまたは印刷して使用します。



STEP2 授業実施

教員はスライドに沿って進行するだけ。ワーク中は、児童生徒のサポートができます。児童生徒は3D空間で「問い」を見つけ、探究学習を進めていきます。

001

業種：歯科医院
空間：ケンデンタルクリニック



空間 1フロア
空間依存度 ★★★★★

ポイント：
虫歯治療以外の目的や、歯科訪問診療の増加など、その背景にある課題に目を向け、将来の歯科医院の在り方について探究を深める。

002

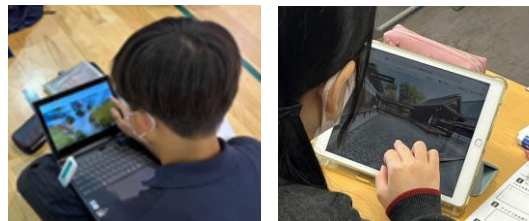
業種：学童保育
空間：リックキッズ



空間 1フロア
空間依存度 ★★★★★

ポイント：
「特機児童」や「小1の壁」などの課題について、日本と海外との学童施設の違いや、学童施設の種類などから、探究を深める。

空間一例（教師用手引きより抜粋）



一人一台端末で3D空間を操作している様子



↑ 3D空間の見え方



← グループワークの様子

「気づき→仮説→検証→結論」をグループで協働し、多様な意見を聞くことで多角的な視野を身に付けられます。また、探究サイクルを回すことで、学習の質を高めることができます。

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	1	学校等教育機関数	4校
---------------	----------	-----------------	-----------

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	川崎市教育委員会	川崎市立南河原中学校	神奈川県	中学校	1	授業、授業準備
2	川崎市教育委員会	川崎市立柿生中学校	神奈川県	中学校	1・2	授業、授業準備
3	川崎市教育委員会	川崎市立平中学校	神奈川県	中学校	2	授業、授業準備
4	川崎市教育委員会	川崎市立南加瀬中学校	神奈川県	中学校	1・2	授業、授業準備

【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

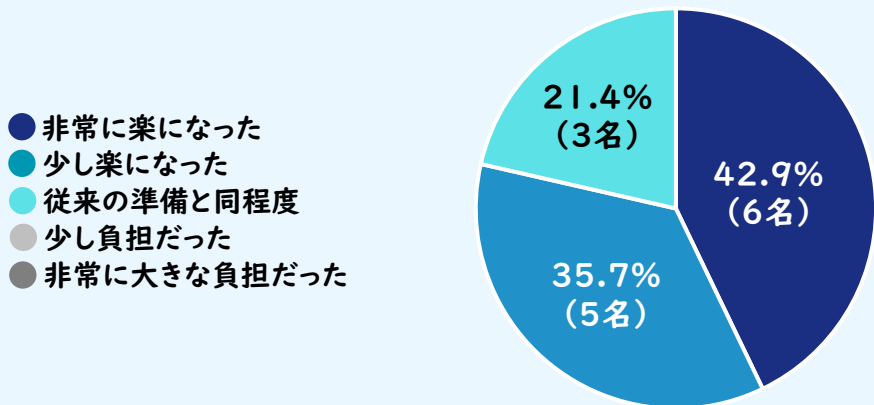
定量的効果検証

教員向けアンケート結果（回答数：14名）

【質問】

「導入初期の負担」

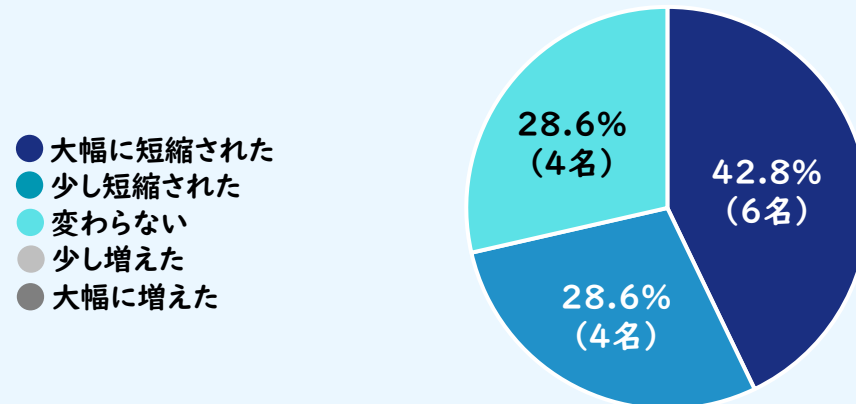
『デジ探360』の操作や活用方法を習得する導入初期の準備は、従来の探究学習の準備と比較してどうでしたか？



【質問】

「定着後の負担」

操作や活用方法に慣れた後、1回あたりの授業準備期間は、従来の探究学習の準備と比較してどうなりましたか？



【分析】

「導入初期の負担」と「定着後の負担」のアンケート結果では、どちらも同じ割合でした。導入初期から「準備が楽になった」「準備期間が短縮された」として約77%の効果がありました。アンケートでも、「スライドを見せながら説明出来たので負担軽減になった」、「スライドや教師用手引きが用意されていたことで教材研究の時間を短縮することができた」など、準備期間の短縮と負担軽減に効果があったとの感想がありました。

本サービスを初めて活用する教職員と、複数回活用している教職員との操作に関する差がなく、従来の準備作業や素材探しなどをする必要が無くなったことで、負担軽減と準備期間の短縮につながったと思われます。

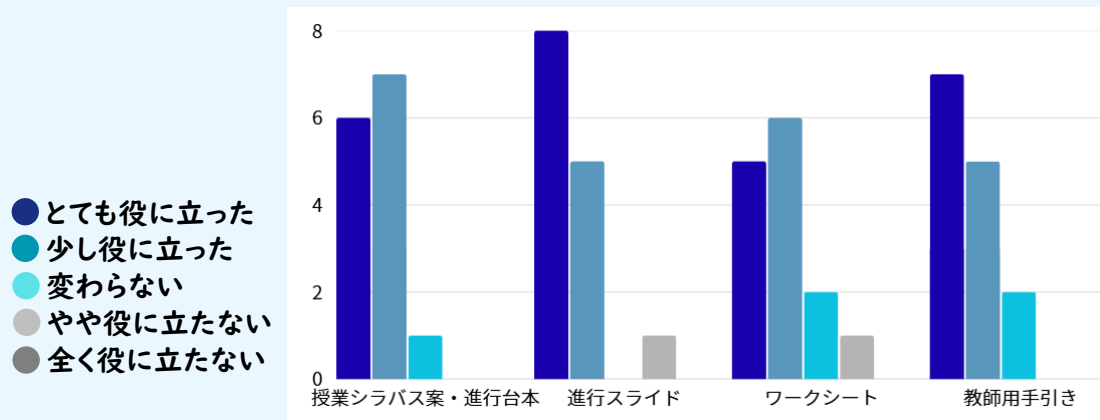
【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

教員向けアンケート結果(回答数:14名)

【質問】 「直接的な負担軽減の要因」

提供した以下の教材・サポートは授業準備の負担軽減にどの程度役立ちましたか？

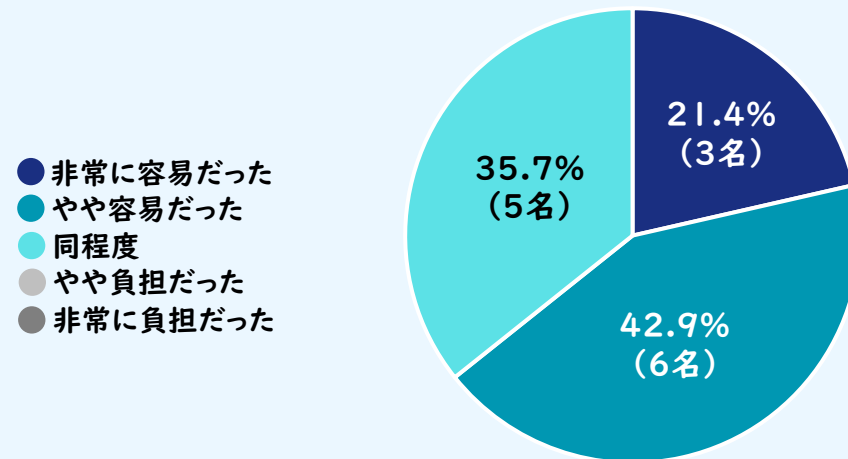


【分析】

この回答から、①進行スライド(13名)、②授業シラバス案・進行台本(13名)、③教師用引き(12名)、④ワークシート(11名)の順で、教材・サポートが授業準備の負担軽減に役立ったことが分かりました。一方で、「ワークシートや発問が大まかではっきりとしていない」という意見もあり、今後改善の余地があります。

【質問】 「授業実施時の負担軽減」

授業中において、生徒の端末操作の管理や、活動のファシリテーションは他のICTツールを活用した授業と比較してどうでしたか？



【分析】

URLやQRコードを読み取るだけで簡単に教材にアクセスできるため、教職員の約64%が容易さを実感できたと思われます。不便さはないものの、容易性は授業負担の軽減に直結するため、今後充実化を進めるなど、更なる改良改善の認識を持ちました。

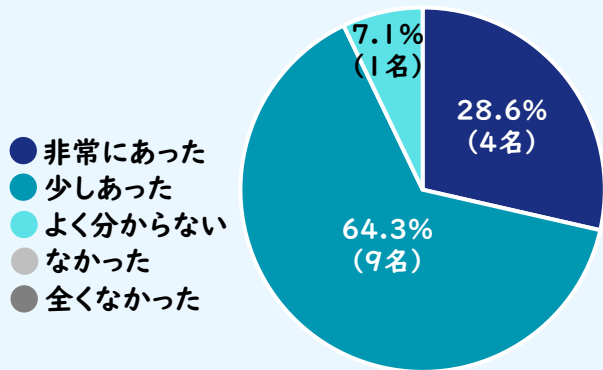
【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

教員向けアンケート結果(回答数:14名)

【質問】「学習意欲の向上」

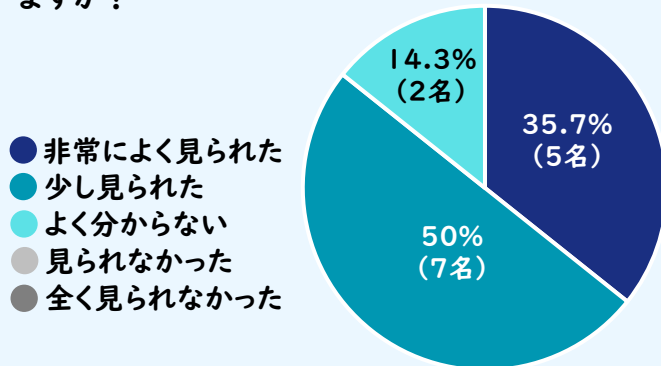
『デジ探360』の活用は、生徒の学習意欲喚起にどの程度の効果があったと思いますか？



本サービスを導入したことで教職員の約93%が生徒の**学習意欲(ワクワク)**が向上したと感じることが分かりました。

【質問】「社会性・キャリアへの関心」

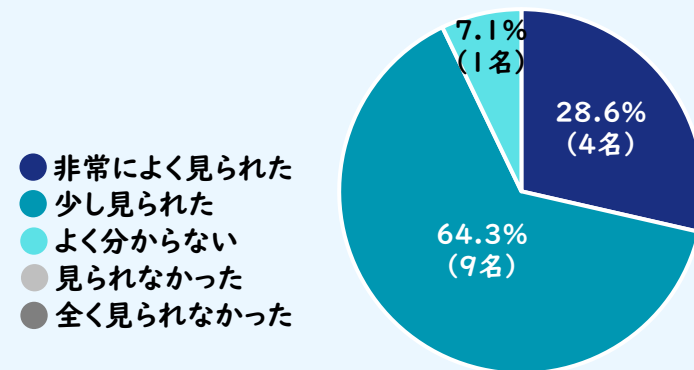
『デジ探360』の活用は生徒が実社会や将来のキャリアに関心を持つ「きっかけ」になったと思いますか？



教職員の約86%が、生徒が**キャリアに興味を持つ「きっかけ」**になったと回答がありました。

【質問】「思考の深化と『問い』の生成」

生徒が、3D空間内に設置された「タグ」をきっかけに、新たな「問い」や「疑問」を持つ様子が見られましたか？



教職員の約93%が、生徒の**主体的な学習活動に結び付く様子**が見られたと実感していることが分かりました。

【分析】

教員向けアンケートからは、「**生徒の興味・関心を引き出せた**」「3D空間を通して未来の技術や生活をより**具体的に想像することができた**」などといった感想があり、生徒の学習意欲向上につながる**手ごたえを感じている**教職員が多いことが分かりました。

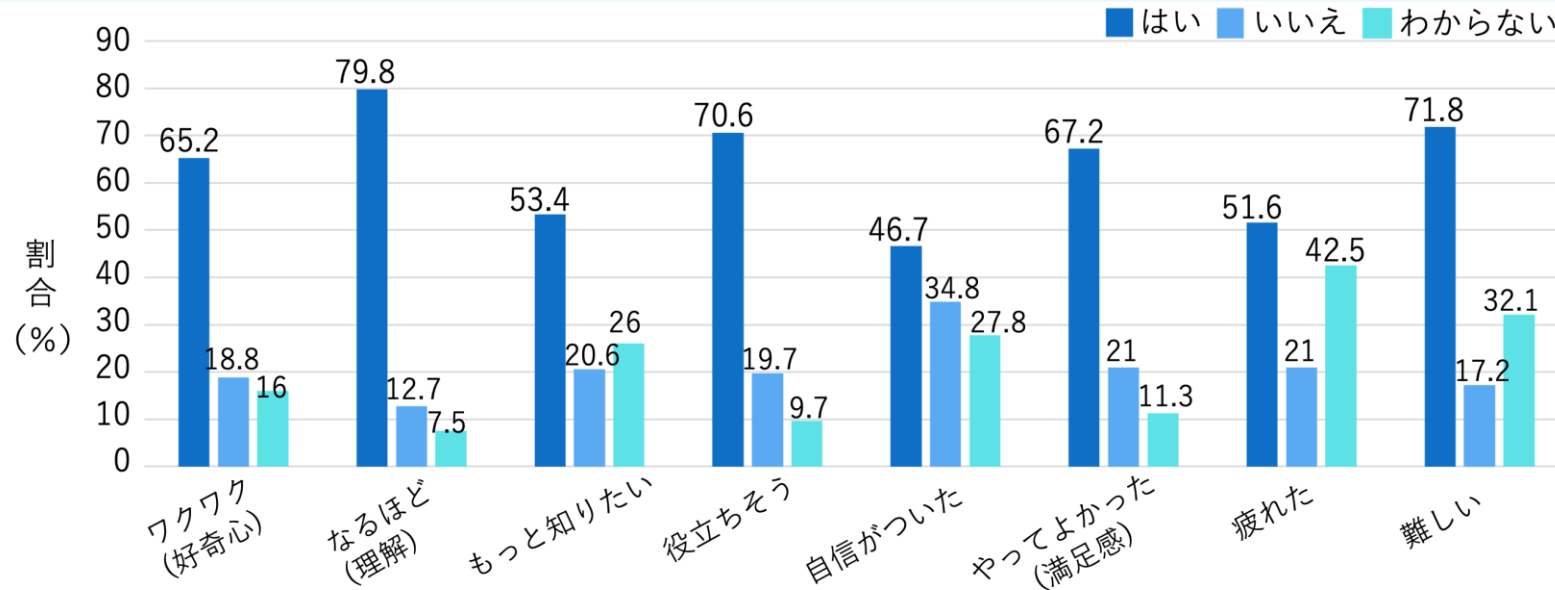
また、「同様・類似のサイトへ飛び、他のワールドの探索を行っている様子があった」として、**生徒が積極的に「問い」に対する探究に取り組む様子**が見られました。

本サービスにより、生徒の表面的な理解ではなく、「**学習意欲の向上**」や「**思考の変化**」にも効果が見あったと感じる教職員が多いことが分かりました。

定量的効果検証

全体を通して感じたこと(生徒の満足度)

生徒向けアンケート結果(回答数:442名)



教材設計について

『デジ探360』の学習構成はARCSの4つの工夫を散りばめながら設計しました。

ARCSモデルとは、教育工学・教育心理学者のジョン・ケラーにより提唱された、学ぶ意欲を向上・維持するために教える側がとるべきポイントを整理したフレームワークです。

- A: 「注意喚起 (Attention)」
- R: 「関連性 (Relevance)」
- C: 「自信 (Confidence)」
- S: 「満足感 (Satisfaction)」

それぞれの頭文字から「ARCS(アークス)」と呼ばれています。

【分析】

- 【注意喚起(A)】 平均して65.2%の生徒が「ワクワク」を感じており、**導入や教材の内容が興味を引くものであった**ことが伺えました。
- 【関連性(R)】 「役立ちそう」というスコアが全体的に高く(平均70.6%)、**自分との関連性を見出せている**生徒が多いことが伺えました。
- 【自信(C)】 「なるほど」という理解度は平均で79.8%と高いですが、「難しい」と感じている生徒も71.8%おり、学年や教材により差が出てくるポイントです。
- 【満足感(S)】 「やってよかった(満足度)」は67.2%いる一方で、「疲れた」と回答した生徒が51.6%という結果から、**頑張っ取組んだ**ことが考えられます。

【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証

川崎市立南河原中学校の実施例

「探究×デジタル」による**学びの定着**

中学1年生に「探究活動」を定着させるための教材としてデジ探360を導入。5～7月の全10コマ、『総合的な学習の時間』にて「課題設定」から「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」までの探究プロセスを繰り返し行えるような授業を計画。個人ワークとグループワークを織り交ぜたことにより、学びの定着が見られた。

学びの工夫①

3D空間を生徒が自分で探索し、「気づき」や「疑問」を持ち、それを基に仮説を立ててネットで必要なデータを集めることに重点を置いたことで、生徒一人一人の課題設定ができるようになり、「問い」を深めることができた。

学びの工夫②

「気づき→仮説→検証→結論」をグループで協働して探究サイクルを回した。さらに探究サイクルを3回行ったことにより、生徒の学びの定着につなげることができた。

【探究サイクルを3回実施した授業計画】

1サイクル	探究活動とは 3D空間操作練習
	課題設定(小グループ)
	課題設定(小グループ)+発表準備
	グループ発表
2サイクル	テーマ・課題設定(個人)
	課題解決 まとめ(スライド作成)(個人)
3サイクル	小グループで各自のテーマ 課題設定理由と解決策を発表
	デジ探 JTB3D空間①
	デジ探 JTB3D空間②
	デジ探 JTB(ゲストティーチャー)
	未来の職業 振り返り 夏休みの課題発表

【夏休みの課題】

(1)リアルデジ探

地域の中にある空間(店、施設、場所)を自分で選び、足を運び、「気づき」をもとに、その場所における「なぜ?」について仮説を立てて検証し、結論を導く。現実世界には同じ場所であっても時間、天候、人の動きなど、様々な要因によって異なる現象が起きる。そうしたことを踏まえたうえで仮説を立てることが重要。

(2)未来の職業

動画の内容を参考にしながら、今ある職業がどのように変化していくか、または今は存在しないどのような職業が新たに生まれるか仮説を立てて検証していく。現在の社会や未来の社会を想像し、どのような職業があればよいか、またその職業が存在できるためにはどのような条件が満たされればよいか考え、検証する。

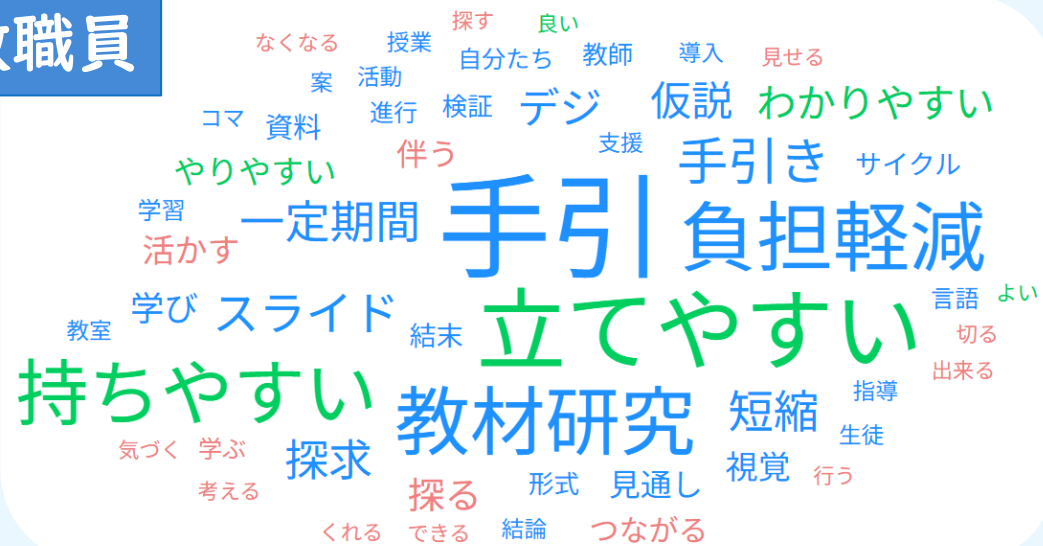
教職員の声

一度のやり切りではなくグループで行ったことをもう一度個人で行う形式が、一定期間の活動になるため計画を立てやすかった。また、デジ探で学んだこの「気づき⇒仮説⇒検証⇒結論」の**サイクルを、自然教室の事前学習など他の活動にも活かすことができ、授業案を考える際の負担軽減にもつながった。**

【分析】

「**授業準備の効率化**」と「**学習の汎用性**」が**実証**されました。探究手法の定着が他行事の指導負担も軽減し、教員が本質的な教育活動に向き合う時間を創出します。

教職員



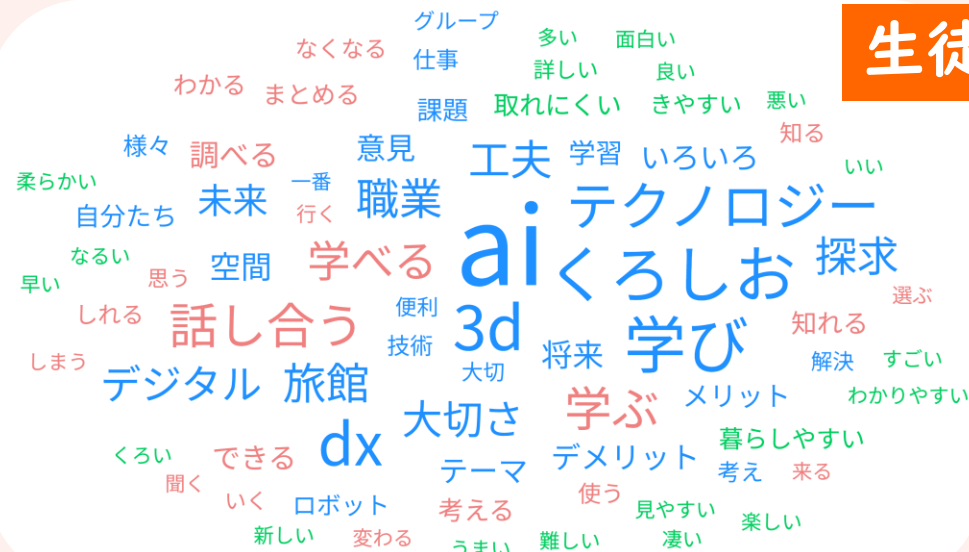
アンケート内の感想を基にしたテキストマイニング

「気づき⇒仮説⇒検証⇒結論」のサイクルを本校ではグループ、個人、そして夏休みの課題でもう一度個人、と3回行ったので、**かなり生徒に定着することができた**。この力が教科の枠を超えて活かされたり、その他の活動にも活かされたりすることがあり、**学び方、考え方に効果があったと感じている**。また、3D空間などのデジタル教材を使ったり、AIなどによって未来がどう変化していくかということを考えたりすることを通して、これから一層デジタル化が進んでいく時代を生きていく**生徒たちにとって未来の世界を考える良いきっかけとなった**。

学校の従来のカリキュラムの中にはない内容なので、**よい刺激になったか**と思います。

スライドや教師用手引きが用意されていたことで**教材研究の時間を短縮**することができた。

生徒



アンケート内の感想を基にしたテキストマイニング

私たちの身の回りでも使われていることが多いのだと思いました。これから先、**就職したときにも使えるのだと知り学びになりました**。

自分が選んだテーマを3D空間を使用して**グループで考えを深め合うことが一番学びとなりました**。

どのスライドも見やすく、**テーマの追求の仕方が一番学びになりました**。最後のエジソンの名言が心に刺さりました。

今回の授業で、班によって全然意見が違っていたことが「**たくさんのサイトから調べよう**」と思う**きっかけになり勉強になった**。

※「くろしお」:3D空間施設名(旅館)

■ 探究・校務改革支援サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

サマリー

学校固有の通信環境や端末スペックの影響により、3D空間の読み込みに時間を要し、授業の円滑な導入が阻害される課題がありました。加えて、教材内の『なぜタグ』の問いかけが大まかであるため、生徒の思考が深まりにくく、教員の個別指導も難易度が高いという実態も明らかになりました。改善策として、システム面では「**段階的なアクセス手順**」を標準化し、『教師用手引き』および『授業補助スライド』に運用ルールとして明記することで、通信負荷を確実に回避します。同時に、指導面では現場の声を反映して『なぜタグ』をより具体的な発問へ改良。さらに、**他校の成功事例や効果的な声かけのパターンを手引きに拡充**することで、経験の浅い教員でも自信を持ってファシリテーションを行えるよう、包括的なサポート環境を構築します。

直面した課題

【導入時の課題】特になし

【実施して行く中での課題】

■ 端末（Chromebook等）のスペックや学校の通信環境により、3D空間の読み込みに時間がかかり、一時的にサービスを利用できないケースが発生。

■ 児童生徒一人ひとりの興味関心が分散し、授業時間内で授業が完結しなかった事例あり。

【実施した結果、新たに顕在化した課題】

教職員から、「『なぜタグ』の発問が大まかで生徒への問いかけがしづらく、生徒の思考を絞りにくかった」という意見があった。

旅館くろしおの『なぜタグ』例→



解決するための改善策

○ 児童生徒が一斉にアクセスするのではなく、段階に分けて3D空間へアクセスし**通信負荷への対応**を行うよう、「教師用手引き」に記載するとともに、「授業補助スライド」にも授業の手順として明記する。

※読み込みは時間がかかるものの、3D空間へ入室できればその後はスムーズな操作が可能である実施実績あり。

○ 初期設定や教員研修の際に、学校内の通信環境の確認を徹底し、授業前に対応策をアドバイスできるようにする。

○ 他校がどのようにデジ探360を活用した授業を行っているかの事例や、発問からの発展の例を「教師用手引き」に紹介し、教員が円滑にファシリテートできるようなサポートを実施する。

○ 教員からのご意見や児童生徒の様子を元に、『なぜタグ』の改良や空間の追加を順次行う。

■ 会社概要

社名	株式会社SUN Reality (サンリアリティ)		
本社所在地	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2丁目32番5 神保町フロント7F		
代表取締役社長	西條 康介		
設立	2020年 3月25日	資本金	1,000万円
売上高数	4,850万円	従業員数	6名
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル探究教材の開発・提供 ・VR・AR・メタバースを活用した教材制作 ・教育機関への伴走支援 ・教育機関への講師派遣 ・自治体への伴走コンサル支援 ・企業オリジナル教育教材の開発 		

SUN Realityの業務領域

- 1 子ども達のワクワク・ドキドキを引き出す探究プログラム「デジ探360」シリーズ(トレーニング編、アドバンス編)の企画開発、講師派遣、教員研修
- 2 オーダーメイド型デジタル教材の企画開発、講師派遣、教員研修、保守等のサポート全般、組織活性化、マーケティング支援コンサルティング
- 3 「教育×デジタル(生成系AI・VR・AR・ドローン)」を活用した課題解決型コンテンツ・サービス開発、ライセンス連携、イベント等の企画立案～映像制作、運営サポート

教育事業における実績

- 2020
 - 「バーチャル修学旅行360(京都・奈良編、日光編)」開発
 - *東京都練馬区中学校への一括採択、全国15,000名を超える児童生徒が体験
 - 株式会社JTBと業務提携契約
 - 教育プラットフォーム「バーチャルクラスルーム360」開発
- 2021
 - 2021年度EdTech事業者として採択*協力校5校との取組み実践
 - デジタル教材「SDGsを学ぼうシリーズ(事前学習モデル)」開発
 - デジタル教材「DXを学ぼうシリーズ」開発
- 2022
 - 「バーチャル修学旅行360(沖縄編)」開発
 - 2022年度EdTech事業者として採択 *協力校5校との取組み実践
 - デジ探360～デジタル×トレーニング編の開発
- 2023
 - 静岡県磐田市教育アドバイザー就任(2023～2025年度)
 - 2023年度探究的な学び支援補助金の事業者・プログラムに認定
 - 2027国際園芸博覧会(横浜)教材の開発・普及業務受託
 - デジ探360～アドバンス編の開発
 - 静岡県磐田市オリジナル探究教材の開発・研修業務を受託
- 2024
 - 2024年度働き方改革支援補助金の事業者・プログラムに認定
 - 大阪関西万博ESD(教材)の開発・運営業務を受託
 - 文部科学省DXハイスクール支援事業に着手(青稜、高知学芸高)
 - 高校生の海外留学支援制度設計に係る業務を横浜市より受託
 - 洋上風力発電普及啓発推進事業委託業務を石狩市より受託
 - 高等学校DX加速事業委託業務を愛知県より受託
- 2025
 - 2025年度探究・校務改革支援補助金の事業者・プログラムに認定
 - 世界を目指す若者応援事業に係る業務を横浜市国際局より受託
 - 2025年大阪・関西万博ジュニアSDGsキャンプにて体験プログラムを実施
 - 探究学習を加速するDXスキルアップ教員対象研修業務委託を静岡県より受託
 - 高等学校デジタル人材育成支援事業業務を栃木県より受託
 - 水道の普及啓発デジタルコンテンツ制作業務を神奈川県企業局より受託
 - 高等学校デジタル人材育成支援事業業務を福岡県より受託
 - DXハイスクール域内横断支援事業業務を愛知県より受託
 - 第4回牧之原市チャレンジビジネスコンテストにおいて市長特別賞を受賞



デジ探360



会社HP

【お問合せ】

株式会社SUN Reality
企画サポートセンター

TEL:03-6364-6448
(9:30～17:30)

メールアドレス:
info@sunreality.jp

定休日:土・日・祝日